

【緑地の樹】

ヤブツバキ <藪椿>

緑地便り11月、12月号に続いて、日本の海岸近くの丘陵や山地に自生するヤブツバキ(ヤマツバキ)。

常緑高木(5～15m)。2～4月に枝先に杯状紅色の花が咲く。花弁の基部と雄しべの下部がくっついていて=合弁花なので、散る時は花ごとポトッと落ちるのが、花びらがヒラヒラ落ちるサザンカと違う。



プロフィール：ツバキ科 ツバキ属

道路から上がる細い山道と中央広場下の間の林の中に数本ある。

秋に直径4～5cmの果皮の厚い球形の実をつけ、熟すと3裂して暗褐色の種を2～3個出す。この種子から椿油を採る。

四国と九州に稀に生える白いシロヤブツバキもある。

ツバキには、茶道が盛んになると共に非常に沢山の園芸種が生まれてきた。

(星)